

## EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2011.3.1

No.80

先日家族で京都・西京極集会を訪問しました。その際、ある女性がお茶を点ててくれました。実は、子どもたちはお点前の作法を以前学んだことがあり、時々家でもお茶会らしきことをするのでとても喜びました。

以前から「茶道」と聖書が密接な関係を持っているという事は知っていました。そんな折、「茶の湯の心で聖書を読めば」(高橋敏夫著)を読んで、改めて教えられました。

わび茶は、堺の町衆である武野紹鷗(たけのじょうおう)、その弟子の千利休によって安土桃山時代に完成しました。彼の流れを継ぐ弟子たち七人を「利休の七哲」と言います。一番有名なのは、高山右近という大名ですが、この七人のうち五人がキリシタンだったのです。豊臣秀吉は利休に切腹を命じ、その後キリシタン追放令を出し、聖書的な考えは一層されることになりました。江戸時代初期までは茶の湯は大名や有力な商人たち専用のものでしたが、江戸中期から一般大衆に広がってきました。あまりの大衆化に対して、本来の茶の湯の精神に戻ろうとする動きが大徳寺派の臨済宗の寺を中心に起こったそうです。このあたりから茶道と寺院の関わりが深いと思われたのかもしれませんが。さらに、江戸時代(元禄時代)に書かれた「南方録」

## 茶の湯と聖書の意外な関係



には「小座敷での茶の湯の第一は、仏教の修行の心を体して茶の修行を極め、悟りを開いていくことである」と書いています。ただ、この著者南方宗啓と

いう人は千利休から聞き書きしたものをまとめたと言っているのですが、どうやら真実ではないようです。キリシタン禁教が徹底された時代に、彼は利休の精神に戻ろうとしていました。聖書の影響をかき消された茶道に仏教の思想を読み込んだのも致し方なかったのかもしれませんが。こういう背景があつて、今では多くの人は「茶道」は仏教や禅宗の影響を受けていると考えているのです。

利休の一番弟子とも言える高山右近についてある宣教師に次のようにレポートを本国に送っています。

「高山はキリシタンであることによつてたいへん有名であるが、その信仰のため二度追放されて領国を失い、その二度目はフィリピンに流され、その地で辛労により没したのが、殉教の栄光を彼は失わなかったと思われている。：神にすがると同時に一つの肖像をかの小屋に置いて、そこに閉じこもつたが、そこでは、彼の身につけていた習慣によつて、神にすがると同時に落ちていて隠遁することができると語っていた。」

(一部改変)

ここの「か的小屋」こそ茶室のことで、彼はそこで祈っていたというのです。彼にとつ

て茶室は唯一、気兼ねなく、神に心を注ぎだす場所だったようです。

茶道では甘いお菓子を食べてから一つの器を皆で回して立てたお茶を飲んでいきます。これは聖書に出てくる「パンを裂き、葡萄酒を回す」という儀式から来ているのではないかと言われています。

「また杯を取り、感謝をささげ後、こう言つて彼らにお与えになった。『みな、この杯から飲みなさい。これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。』」

(マタイ二十六章二十七、二十八節)

イエスが十字架にかかる前に、弟子たちと最後の晩餐をとります。そこでイエスが葡萄酒を回して弟子たちに語られたことがこれです。人間の罪のために十字架に向かおうとしているイエスですが、これによつて人間と新しい契約が結ばれることを宣言されました。これが「新しい契約」について書かれているのが「新約」聖書なのです。契約書に印鑑を押して契約が有効になります。朱肉は血を表すとも言われますが、イエスはまさにご自分の血によつて新しい契約を確かなものとしたのです。

イエスは十字架で死なれ、葬られました。三日後に復活しました。これは神の奇蹟です。この新しい契約が本物であり、イエスが本物の救い主であることを人類に示したのです。私たちはこれを記念して毎週、杯を回して礼拝しています。

西京極集會への訪問

E

二月二十七日、家族で京都の西京極集會におじゃましました。大家族の僕たちを暖かく迎えてくださいました。

午前九時、西京極集會の日曜学校と中高生クラスが始まります。僕の集會では午後三時半にヤングクラスがあるので、朝のクラスはとても新鮮でした。「おはようございます」と子どもたちとスタッフの方々が次々に集まって来られます。一番小さい子どもは六ヶ月です。日曜の朝、ゆっくり寝ているかもしれない時間ですが、西京極では日曜学校の働きをしておられることを見て「本当にすごいなあ！」と思いました。日曜の朝一番に中高生クラスに参加できとてもよかったです。

休憩時間には近くの公園でサッカーやフリスビーをしました。フリスビーはしたことがなかったのに、やっているうちにどんどんおもしろくなってきて、はまってしまいました。

茶道の先生もおられておいしいお菓子とお茶でもてなしていただきました。昼食や夕食、デザートなど心がこもった食事の数々に心もおなかも一杯になりました。ほとんどお会いするのは初めての方たちでしたが、すぐに仲良くなれました。不思議です。

夜の交わり会で、僕たちの家族で手話付きの歌などを披露しました。僕たちの後に歌われた二グループはまるでプロです。僕たちの歌とはレベルが全然違いました。僕たちの歌はへたではずかしかったです。でも忍耐して暖かい感じで聴いてくださいました。

帰るときにはN兄弟のハーモニカの演奏の中で見送っていただきました。こんふうに見送ってもらったことはなかったのでびっくりしました。六ヶ月の赤ちゃんから残ってくださいました方たち全員が出てきてくださり感動しました。名残惜しく帰りたくないくらいでした。

二 月  
「こんなごじました！」 行事報告

- 一日 N・十五歳誕生日
- 十一日 第三回 関西ホームスクール交流会 合同公文教室
- 十五日 京都・西京極集會訪問
- 二十七日

←京都集會の概観

夕食を共にし、交わり後の記念撮影↓



ホームスクール交流会

R

今回で三回目の関西ホームスクール交流会にお兄ちゃんが行ってきました。約七十人の大人数でした。集會のY家も一緒に参加しました。

ちようどこの日は朝から雪が積もっていてみんな大喜びではしゃいでいました。お昼からは晴れて、みんなで雪だるまを作りました。

前回の交流会は雨で外は遊べなかったけれど、今年はずべて本当に良かったです。男の子たちはKIUの横の大きなグラウンドでサッカーなどをしていました。女の子たちは一回話すとずっと話していきませんでした。お話することが大好きでした。また映画「モンスターズインク」をみんなで夢中になって見ました。そして小さな子もいたので私はお世話がいっぱいできてうれしかったです。私は未っ子で家で赤ちゃんの世話をしたことがないので小さい子のお世話をしたくたまらなかったのです。お昼ごはんは各自の持ち寄りでした。パンやおかずやおにぎりがたくさん並んでいました。それぞれの家の味が味わえました。(笑)

本当に楽しい一日でした。

編集後記

家族で訪問した西京極集會。音楽発表の準備もして、車で行くルートも入念に調べて…。行く三日前から三女が体調を崩し、心配していたら前日から次女がダウン。結局、一人留守番となり六人で訪問しました。本当に何が起るかわからない。病気でないというのは当然ではなく守られているのですね。